

# めぐみさん拉致 15日で39年 横田夫妻悲痛



拉致される直前に横田めぐみさんがプレゼントしてくれたくしを手に、思いを語るめぐみさん、早紀江さん夫妻  
12日、川崎市（中村昌史撮影）

## 「生きて、会いたい」

新潟市で横田めぐみさん(52) 拉致当時(13)が北朝鮮に連れ去られてから、15日で39年となる。解決への糸口が見えない中、父の滋さん(83)と母の早紀江さん(80)は早期帰国へ向けた日本政府の取り組みに望みをかけている。

めぐみさんは昭和52年11月15日、中学校からの帰宅途中に拉致された。北朝鮮は平成14年に拉致を認めたが、すでに死亡し

たと説明。他人の「遺骨」をめぐみさんのものとして引き渡すなど、虚偽説明を繰り返し、その後も主張を変えていない。26年5月には、全ての拉致被害者の再調査などを盛り込んだ「ストックホルム合意」が交わされたが成果はなかった。

被害者や家族が高齢化する中、家族会は今年、新たな運動方針を発表。拉致を置き去りにせず、核・ミサイル問題と切り

離して「第一最優先」で取り組むよう日本政府に求めている。一方、米国では共和党のドナルド・トランプ氏が大統領選に勝利し、対北朝鮮政策で新たな局面も想定される。ただ、現時点でトランプ氏の拉致問題への理解や位置づけは不明だ。早紀江さんも12日、「トランプ氏も含め海外の状況はよく分からないことが多い。解決は日本政府の取り組みにかかっている」と話した。

が、北朝鮮が拉致を認めることと日本国民の意識は怒りや共感に変わった。

「全身全霊をかけて訴えてきた。今はただ、生きてめぐみちゃんに会いたい」

早紀江さんは、静かに語る。北朝鮮が拉致を認める前から、滋さんとともに救出活動の先頭で走り続けてきた。「めぐみちゃんや、一人でも多くの方が元気に帰ってくることをただが願いだっただけだ。帰国はまだまだかなわらず、非道な拉致から39年がたとうとしている。

平成9年に家族会が結成されたころ、「北朝鮮による拉致」に懐疑的な世論もあり、街頭で罵声を浴びせられることさえあった。だ

「面識のない方が激励してくださる。本当に勇気づけられた」。数え切れないほどの集会や講演に参加した。国内外の要人にも訴えた。救出を願う全国を駆け回る夫妻の姿は、拉致被害者救出運動の象徴的存在となった。それでも拉致問題は膠着している。

「考え得る全てのことを必死にやってきましたつもりです。それでもなぜ、取り返せないか。答えは出ない」

夫妻は今、老いや病と直

面している。数年前から長距離の移動を伴う活動が負担になった。15日に新潟市で行われる拉致解決へ向けた集会も中継で参加する。早紀江さんは「心配をおかけするのが歯がゆくて仕方ない。拉致の風化も気にかかる」ともらす。

自身の誕生日の翌日にめぐみさんが拉致された滋さんも14日で84歳になる。老いと思うように言葉が出なくなってきたが、「一刻も早く解決してほしいです」。力

強いまなざしで、絞り出すようにこう呼びかけた。

### 横田めぐみさんが拉致されてからの経過

昭和52	11月15日	新潟市で中学校からの帰宅途中に行方不明となる		①昭和52年1月に新潟市の自宅前で撮影した着物姿②拉致直後に北朝鮮で撮影したとされる写真③北朝鮮が「独身時代」として提示した写真
平成9	1月21日	北朝鮮に拉致されたとの情報が横田さん夫妻に寄せられる		
	2月3日	産経新聞がめぐみさんの拉致疑惑報じる。衆院予算委員会で西村眞悟氏が初めて実名をあげて拉致疑惑を指摘する質問。橋本龍太郎首相は「捜査当局で所要の捜査が厳重に行われている」と答弁		②
	3月25日	滋さんを代表に「北朝鮮による拉致被害者家族連絡会」(家族会)が結成		
	14年9月17日	日朝首脳会談で北朝鮮の金正日総書記が拉致を認め謝罪。めぐみさんについては「死亡」と説明		③
	16年11月15日	日朝実務者協議で北朝鮮がめぐみさんの「遺骨」を提示していたことが判明。5年3月13日としていた「死亡日」も訂正した。「遺骨」は日本でのDNA鑑定などで別人のものとして特定される		
	26年3月10~14日	横田さん夫妻と、めぐみさんの娘、キム・ウンギョンさんがモンゴルで初めて面会		
	28年11月15日	めぐみさんが拉致されてから39年を迎える		

**政府は具体的目標を  
家族会が群馬で集会**

北朝鮮による拉致被害者の早期救出を目指す集会が12日、群馬県富岡市で開かれ、田口八重子さん(61)＝拉致当時(22)＝の兄で家族会代表の飯塚繁雄さん(78)が「政府は解決に向け期限を設けるなど具体的に目標を立てて動いてほしい」と訴えた。飯塚さんは、北朝

鮮がミサイル発射を繰り返す状況を踏まえ、「こうした問題があるときこそ拉致問題を前面に出せるチャンス」と主張。米大統領選に勝利したドナルド・トランプ氏については「日本政府は新大統領に(拉致問題を)しっかり認識させてほしい」と要望した。

「特定失踪者問題調査会」の荒木和博代表は「必ず助け出すという姿勢を示し、『日本は怖い』と北朝鮮に思わせることが必要だ」と話した。